GO TO TOKYO

江戸の「祭り」観光ガイド

いにしえの文化を楽しむ

～ TRADITIONAL FESTIVALS OF EDO ～






出典：落合芳幾・画《天王御祭礼之図》（東京都立中央図書館）

Tokyo Tokyo Old meets New　Edo Tokyo The Spirit of Tokyo



泰平の世が醸成した江戸ならではの祭り

江戸時代に発展した壮大な祭りの数々

日本における祭りの起源は、神話の時代にまでさかのぼります。太陽神（皇祖神）である天照大御神（あまてらすおおみかみ）が岩戸に隠れてしまったとき、世界に光を取り戻すため神々が祭祀や踊りを行った「天岩戸神話（あまのいわと）」がルーツとされています。その後、あまたの自然現象や万物に神が宿るという神道の考え方、奈良～平安時代にかけて海外（主に中国）から多くの伝統行事が伝わったことなどが影響し、日本では様々な祭りが定着していきました。

江戸時代に入ると、泰平の世も手伝って熱狂ぶりに拍車のかかった大祭が多々行われるようになります。その代表格が山王権現（現在の日枝神社）の山王祭や、神田明神の神田祭です。いずれも江戸幕府の庇護のもとで開催され、武士から町人に至るまで幅広い人々が熱狂。各町ごとに競い合うように山車や練物（ねりもの）の趣向が凝らされ、年を追うごとに豪華（いき）になっていきました。言わば、江戸っ子の「粋（いき）」が結集したのが江戸の祭りだったのです。

どちらの祭りも江戸城内にまで祭礼行列（山車）が進み、さらに将軍まで上覧。こうした特別な扱いから「天下祭」と称されました。



出典：歌川国輝・画《山王御祭礼図》
（東京都立中央図書館）



出典：歌川広重・画《東都上野花見之図・清水堂》（国立国会図書館）



出典：楊洲周延・画
《江戸風俗十二ヶ月之内　六月山王祭》
（国立国会図書館）



出典：月岡芳年・画
《月百姿　神事残月旧山王祭（つきの百姿）》
（国立国会図書館）

四季のイベントが人々の癒やしに

天下祭をはじめとする大祭以外にも、多彩な催しが江戸に定着しました。なかでも特徴的だったのが花見や園芸です。きっかけのひとつは8代将軍・徳川吉宗による「享保の改革」。質素倹約や風俗矯正を掲げて風紀を取り締まった一方で、息抜きの場として江戸郊外に桜の名所を整備。飛鳥山や隅田川沿いなどに桜が植樹されました。以降、江戸の庶民にとって花見は、春定番の行楽になったのです。

また、18世紀後半からは朝顔をはじめとする園芸ブームが到来します。珍しい色や形をした奇品の栽培が盛り上がり、江戸の各地で品評会が開催されました。こうした文化が、現在の「入谷の朝顔市」の土台になっています。江戸時代から続く祭りや催しは、武士から町人まで、身分や職業の垣根をこえたものが数多く存在したのです。

「江戸三大祭り」の魅力に迫る

天下祭と称された山王祭と神田祭に、江戸幕府の命によってはじまった深川祭（現在の深川八幡祭り）を加えた3つが「江戸三大祭り」です。いずれも現代の東京を代表する大祭として人気を集めています。



鳳輦（ほうれん）や宮神輿、山車を従えた神幸行列



徳川将軍家の産土神（うぶすながみ）として崇敬されてきた日枝神社

◉日枝神社
☎ 03-3581-2471
住 東京都千代田区永田町 2-10-5

神幸行列では、約500人が王朝装束に身を包み、皇居前やビル群などを巡行します。

●6月7～17日

山王祭 P7-map A

「東都随一」と称された祭礼

江戸幕府3代将軍・徳川家光以降、歴代将軍が上覧した江戸三大祭りの筆頭格です。毎年開催されますが、特に西暦偶数年に行われる「神幸祭（じんこうさい）」が盛大。約300mにも及ぶ神幸行列が、皇居周辺や銀座、日本橋などの都心を練り歩く様子は圧巻です。そのほか盆踊りや稚児行列なども行われ、境内では神楽（かぐら）や祭囃子（まつりばやし）などが披露されます。

江戸三大祭りに並ぶ伝統祭

●5月の第3金～日曜

三社祭

下町一帯が熱気に包まれる P7-map D

「三社様」の名で親しまれている浅草神社の祭礼です。正和元年（1312）、神輿をのせた船で隅田川を渡御（とぎょ）した「船祭」が起源。東京都無形民俗文化財の「びんざさら舞」や、浅草各町を渡御する約100基の神輿などが見られます。



複数の町内の神輿が境内に参集する様子は圧巻

◉浅草神社
☎ 03-3844-3183
住 東京都台東区浅草 2-3-1

©浅草神社



慶長５年（1600）、徳川家康が戦勝祈願を行ったのが起源



神田明神（神田神社）は、天平２年（730）創建と伝わる江戸の総鎮守

神輿宮入では大小約200の神輿が見られます。威勢のよいかけ声も魅力です。

◉神田明神（神田神社）

☎ 03-3254-0753

住 東京都千代田区外神田 2-16-2

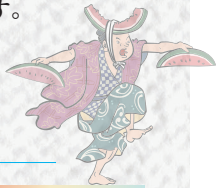
● 隔年の5月中旬

神田祭

P7→map B

神幸祭の大行列と神輿宮入は必見

山王祭と並ぶ伝統と規模を有する天下祭のひとつです。西暦奇数年に本祭りが開かれ、偶数年は境内での神事が中心。特に見応えがあるのは本祭りで、神田や日本橋などの108町会を神輿が巡行する「神幸祭」は圧巻です。数百人の大行列が神田明神（神田神社）へと練り歩きます。





下町を練り歩く「神輿連合渡御」がハイライト

担ぎ手にお清めの水を浴びせる「水掛け」は、誰でも自由に参加できます。



寛永４年（1627）に創建された江戸最大級の八幡宮

◉富岡八幡宮

☎ 03-3642-1315

住 東京都江東区富岡 1-20-3

● 8月15日を含む5日間

深川八幡祭り

P7→map C

江戸っ子の気風が宿る水掛け祭り

富岡八幡宮の例祭で、江戸幕府３代将軍・徳川家光の世継ぎが誕生した祝賀が起源です。３年に一度開催される本祭り（次回は2029年）では、50基を超える大小の神輿に、観衆が水を浴びせかけるのが風物詩。本祭り前後の年も子供祭りなど、盛大な催しが行われます。

東京 四季のお祭りMAP

現代の東京には、江戸時代の伝統を受け継ぐ祭りが随所に残されています。
規模の大きなものから、四季に根ざしたイベントまで多彩。
訪れれば、江戸の風情を感じられます。

春



●3月中旬～4月上旬

うえの桜まつり

江戸時代前期から上野は桜の名所。奈良の吉野山から取り寄せた桜の苗木が、寛永寺に植えられたのが起源です。

◉上野恩賜公園
☎ 03-3833-0030（上野観光連盟）
住 東京都台東区上野公園

その他の主な【桜まつり】

❷ 墨堤さくらまつり
●3月下旬～4月上旬

❸ 飛鳥山桜まつり
（北区さくらSA-KASOまつり）
●3月の最終土・日曜

春



●3月3～4日

深大寺だるま市（厄除元三大師大祭）

江戸時代から初春の風物詩として親しまれてきたイベントです。「日本三大だるま市」のひとつに数えられ、深大寺境内には朱色のだるまを並べた店が100店ほど軒立ち連ねます。

◉深大寺
☎ 042-486-5511
住 東京都調布市深大寺元町5-15-1

春



●4月上～下旬

亀戸天神社 藤まつり

亀戸天神社は、歌川広重の浮世絵「名所江戸百景」にも描かれるなど都内を代表する藤の名所です。春になると境内には50株以上の花房が咲き、夜はライトアップも楽しめます。

◉亀戸天神社
☎ 03-3681-0010
住 東京都江東区亀戸 3-6-1

夏



●7月6～8日

入谷朝顔まつり（入谷朝顔市）

入谷は、江戸時代後期から朝顔栽培が盛んな地域でした。その伝統を受け継ぎ、戦後復活したイベントです。期間中は入谷鬼子母神（真源寺）を中心に、100以上の露店が並びます。

◉入谷鬼子母神（真源寺）
☎ 03-3841-1800
住 東京都台東区下谷 1-12-16

夏



©浅草寺

「一生分の功徳が得られる縁日」として、江戸時代中期頃から定着。昔から万能薬として親しまれてきた「ほおずき」の露店が、浅草寺境内に約100立ち並びます。

●7月9～10日

四万六千日・ほおずき市

◉浅草寺
☎ 03-3842-0181 住 東京都台東区浅草 2-3-1

秋



1000年以上の歴史を持つ赤坂氷川神社の例祭です。江戸幕府の庇護を受けて発展。現在では数少ない「江戸型山車」が見られます。

● 9月中旬

赤坂氷川祭

◉赤坂氷川神社
☎ 03-3583-1935 住 東京都港区赤坂 6-10-12



冬 ◉11月の酉の日

浅草酉の市 9

長國寺や鷲神社で行われる、江戸時代から続く祭事です。商売繁盛や開運の縁起物「熊手」を販売する露店が立ち並び、その規模は都内最大級。

◉長國寺　☎03-3872-1667

㊟ 東京都台東区千束 3-19-6 など

その他の主な【酉の市】

⑩ 花園神社 大酉祭
◉11月の酉の日及びその前日

⑪ 大國魂神社 酉の市
◉11月の酉の日

現代にも連なる 江戸のグルメ事情



江戸時代中期以降、
江戸の町には
地方から来た武士や奉公人、
出稼ぎなどの単身男性が増え、
外食産業が発展。
特に屋台で味わえる手軽なグルメが
人気を博しました。

江戸の四大グルメ

そばは江戸に多くの常設店が存在する王道グルメでした。天ぷらは串に刺して立ち食いする屋台料理として定着。寿司は、江戸時代後期にこぶし大の握り寿司が登場し、大流行しました。うなぎは江戸時代中期に甘辛だれ、後期にうな丼が考案され、以降「江戸前グルメ」の代表格になりました。

そば



天ぷら





寿司



うなぎ

江戸と日本酒

江戸時代、日本酒は上方（関西）で造られ江戸に運ばれるのが主流でした。海上輸送の際、潮風に揉まれたことで、江戸で流通した「下り酒」は生産地よりも味が良かったと言われています。また、庶民あこがれの高級酒として人気を集めていたのが、現在は調味料として使われる「みりん」。栄養価が高く夏バテ防止などに効果があったとされ、当時は井戸水で冷やして飲むのが定番でした。



通年で祭りを体感できる「展示施設」巡り

祭りは１年に一度だけ開催されるケースがほとんど。
しかし、山車や神輿の展示施設を訪れれば、
いつでも祭りの雰囲気や美意識を楽しむことが可能です。



展示される山車は時期により異なる

赤坂氷川神社 赤坂氷川祭展示場

P7~ map 1

☎ 03-3583-1935
（赤坂氷川神社）
住 東京都港区赤坂 6-10-12
休 無休　時 9:00～17:00
料 入場無料

赤坂氷川祭で実際に巡行される山車を、間近で見学できます。設置されているのは、全国的に珍しい三層型構造の「頼義」や、上段が六角形にかたどられた「猿」などです。



獅子頭は３代将軍・徳川家光が寄進したもの

日枝神社宝物殿

P7~ map 2

☎ 03-3581-2471（日枝神社）
住 東京都千代田区永田町2-10-5
休 無休（臨時休館あり）
時 9:00～16:00
料 入場無料

日枝神社境内にあり、国宝や重要文化財に指定された刀剣、徳川将軍ゆかりの宝物などが鑑賞できます。江戸時代の山王祭で使用された獅子頭など、祭りにまつわる展示も豊富です。



兜を掲げた珍しい山車も見ることができる

兜町・茅場町まちかど展示館

P7~ map 3

☎ なし
住 東京都中央区日本橋兜町
15-3 坂本町公園内
休 無休　時 8:00～20:00
料 入場無料

兜町や茅場町一帯の伝統文化財を見学できる施設です。神輿４基と山車１基のほか、祭りとゆかりの深い「江戸町火消し」にまつわる展示も充実しています。



東京の観光公式サイト「GO TOKYO」
東京の最新の観光情報が確認できます。ぜひご覧ください。
https://www.gotokyo.org/jp/

東京の観光公式サイト「GO TOKYO」
もっと江戸について知りたい方
https://www.gotokyo.org/jp/see-and-do/history/

「Journey Through Edo's Legacy」
日本各地と連携した江戸時代の歴史や文化を感じる100の観光スポットを解説。
https://edolegacytravel.metro.tokyo.lg.jp/

令和８年９月発行　東京都産業労働局観光部
https://www.sangyo-rodo.metro.tokyo.lg.jp/
企画・編集・制作　JTB パブリッシング　監修　河合 敦
©2026 東京都産業労働局観光部／JTB Publishing All Rights Reserved.
※本誌掲載のデータは 2026年7月末のものです。本誌に掲載した地図は国土地理院数値地図（国土基本情報）を加工して作成しています。